■■■■■ 古橋宜昌の EX プランニング講座 第3回 ■■■■■■■

アプローチデザインテクニック

門まわりと玄関ステップを結ぶ通路のことをアプローチと呼びます。

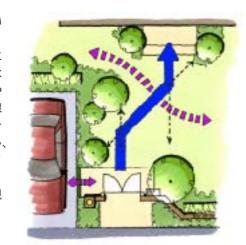
第 1回の「ゾーニング」で解説した通り、先に駐車スペースと門まわりの位置を決めた後にアプローチの計画に入るのが一般的ですから、既に門の位置も決まっていますし、勿論玄関の位置も確定しているので、この間をいかに綺麗に繋ぐかがアプローチデザインのポイントとなります。

又、門まわり同様アプローチもエクステリアを印象づける重要な部分となりますので、床の素材や組合せにも十分注意を払って計画することが重要です。

計画の基本は動線と視線のコントロール

ただ単に門まわりと玄関ステップの間を直線で繋いだだけでは魅力的なアプローチとはならないでしょう。まずはお客様が門から玄関に向かってどの様に歩いて頂いたら気持ちよく感じて頂けるかを考えながらメインの動線をイメージします。次に駐車場やメインガーデン、サービスヤードへの補助的な動線を検討します。主な動線が決まれば次にアプローチを歩くときに前方に何が見えてくるのかイメージし、必要に応じて植栽やアイストップ、フォーカルポイントなどを配置していきます。

大切なのは機能性や安全性を意識しながら動線と視線を匠にコントロールすることなのです。



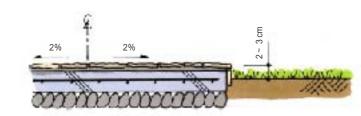
アプローチの基本寸法



人が一人で歩く通路巾としては 60cm程度あれば良いがメイン通路としては狭い。



毎日頻繁に通る通路なので多少余裕を持たせて 90~120cmは確保したい。



床の仕上がり高さはGLより2~3cm高くし、 表面に2%程度の横断勾配を確保する。

ふるはし のりまさ 古橋 宜昌

生年月日: 1958年4月6日 東京電機大学理工学部建設工学科卒。

有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校学長

一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。

JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員

大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、1997年、日本では珍しいエクステリアと

ガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。

個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、 その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。

ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと

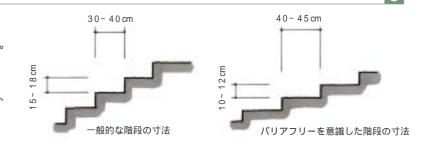
施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、

デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス http://explanningm78.com

階段の基本寸法

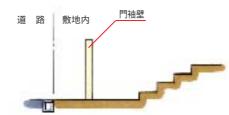
敷地と道路に高低差がある場合はアプローチのどこかに階段を設ける事になります。その際、階段事故を起こさない様に階段の寸法やレイアウトには十分注意を払いましょう。一般的に踏み面は30cm以上、蹴上げは20cm以下が望ましく、蹴上げを低くした場合は踏み面を広くしてバランスをとります。



門まわりでの階段の処理パターン

4

階段はあまり敷地の奥には設けず出来るだけ道路側で処理する方が経済的でメインガーデンなどにも 影響が出にくくなります。ここではその処理パターンと特徴を断面図を使って解説しましょう。



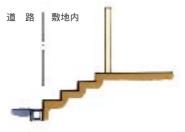
門を入ってから階段をとるパターンは 道路に対して圧迫感を出さずにデザイン出来るが 階段を上がりきるまで土留めが必要となる。



階段の途中に踊り場を設けて門を構えるパターンは 高低差が大きく階段を一気に上がる事が大変な場合に最適。



階段を全て上がってから門を構えるパターンは ボリューム感のあるデザインとなるが、門袖壁の高さと 道路面の壁の高さを上手く調整する必要がある。



同じプランでもこの様に道路からすぐに階段が始まったり、 門の前にスペースが確保出来ないものは危険なので 極力避けるべき。

スロープの基本勾配

一般的に車椅子用のスロープの勾配は 15:1以下にします。つまり上らなく てはならない高低差の15倍以上の水平 距離が必要となるわけです。

さらに、スロープの前後には必ず水平 区間を設けなくてはなりません。

